



1984年のインド、ボパール工場におけるガス漏れ事故は悲劇的な事故でした。現在、本工場はマドラープラデシ州政府の管理下に置かれています。ダウはこの工場の所有・操業に関連していたことはありません。ダウがユニオン・カーバイド社の株式を買収した際には、惨事の発生から16年以上経過し、また、ユニオン・カーバイドおよびユニオン・カーバイド・インド社による、4億7,000万ドルの和解契約がインドの最高裁判所で承認されてから10年が経過していました。  
(この悲劇的なガス事故に関するユニオン・カーバイドの見解についてはウェブサイト <http://www.unioncarbide.com/bhopal> をご参照ください)

## ボパールの悲劇について

### ザ・ダウ・ケミカル・カンパニー

1984年12月3日、化学業界史上でも最大の惨事の一つがインドのボパールで起こりました。われわれ化学業界の関係者は、ユニオン・カーバイド・インドが所有し操業していた工場から漏れたガスに暴露した結果、大勢の方が亡くなられ、負傷されたことを記憶しています。

ダウは、事故の発生現場となった工場の所有および操業はしていませんでしたが、多くの化学業界の企業と共にこの悲劇から多くを学び、二度とこのような事故を繰り返さないために努力を重ねてきました。

ボパール事故を教訓として化学業界は発展してきました。その結果、作業工程における安全基準、緊急時の対応策、地域での認知度などに注力した「レスポンシブル・ケア」プログラムの原則を策定しました。さらに規制当局とも協力し、労働者と地域の安全を守るための法令に沿った最高水準の安全操業が化学業界で行われるよう全力を尽くしてきました。

ダウはボパールの事故に関する責任を負っていませんが、業界におけるレスポンシブル・ケアの導入と、全世界の化学業界における操業実績の改善に尽くしてきました。人々が暮らし、働く場所でもある地域の安全を確保するために、これらの安全操業基準は不可欠です。事業展開する世界のあらゆる場所で、「レスポンシブル・ケア」を完全に実行させることが、われわれの誓いであり義務であると認識しています。

### ボパール事故の詳細について:

旧ボパール工場はインド所在のユニオン・カーバイド・インド(UCIL)によって所有・操業されていました。UCILはユニオン・カーバイド社、インド政府、および複数の民間投資家が共同保有していました。1994年、ユニオン・カーバイド社はUCILの持ち株を売却しました。UCILはその後、エバレディ・インダストリーズ・インドと社名変更しインドの大手化学会社として今日に至っています。ボパ



ールに関する歴史および詳細情報については、ユニオン・カーバイド社のウェブサイト[www.unioncarbide.com/bhopal](http://www.unioncarbide.com/bhopal)をご参照ください。

「レスポンシブル・ケア」の詳細については、[www.responsiblecare.com](http://www.responsiblecare.com)または [www.icca-chem.org](http://www.icca-chem.org)をご参照下さい。